はしがき

2021 年 6 月 26 日～27 日開催の第 162 回大会予稿集をお届けします。この大会は、前回（第 161 回）大会に引き続き、感染拡大が続く新型コロナの状況に鑑み、オンラインでの開催となります。大変困難な状況の下での大会開催ですが、大会運営委員長の伊藤さとみさんをはじめとする大会運営委員のみなさん、ヴァーチュアル開催校である早稲田大学の酒井弘大会実行委員長ほか、大会実行委員のみなさんの献身的な努力により、無事開催されることになりました。これらの方々に心よりお礼を申し上げます。

今回の第 162 回大会には 68 件の応募があり（内訳：口頭発表 63 件、ポスター2 件、ワークショップ 3 件）、うち 53 件が採択されました（内訳：口頭発表 48 件、ポスター 2 件、ワークショップ 3 件）。今までの大会同様、様々な言語（あるいは言語一般）を対象とする、極めて多様なアプローチによる研究発表が予定されています。

公開シンポジウムは「言語の科学とテクノロジーが描く未来社会のビジョン」と題して、酒井弘氏（早稲田大学）を司会として、Edward Chang 氏（University of California, San Francisco）、川原繁人氏（慶應義塾大学）、佐野大樹氏（Google Japan）、Steven Bird 氏（Charles Darwin University）という、国内外の様々な分野の専門家をお招きして、言語の科学と言語に係わるテクノロジーが拓く将来像に関して語っていただきます。

この大会が新執行部最初の大会になりますが、運営体制を整える間もなくコロナ禍の中を必死で前に進まざるを得ない状況に置かれて、日々奮闘を続けている状態です。前執行部のもとで行なわれたいくつかの改革を何とか軌道に乗せることから仕事を始めていますが、各種委員会のみなさんのご尽力のおかげで、徐々にですが体制も整ってきていると思います。

日本言語学会の優れた伝統である、どのような言語に関しても、どのようなアプローチについても、そしてどのような立場の研究者であっても自由に議論できるオープンな雰囲気を何よりも大切にして、学会運営に努力していきたいと思っています。

将来のことを予測することは困難ですが、新型コロナの感染状況をみますと、おそらく当分の間はオンラインで大会を開催せざるを得ないのではないかと思います。ご不自由をおかけしますが、会員のみなさんの安全と安心を第一に考えた結果として、どうかご理解ください。一刻も早く、みなさんに直接お会いしてご挨拶できる状況になることを願っています。

最後になりましたが、今大会も前回と同様に事前の参加登録と参加費の支払いが必要となりますので、ご登録をよろしくお願いいたします。

2021 年 6 月

日本言語学会会長　福井 直樹